鐘華会九州支部だより

九州支部だより　第４号
発行　2003 年 5 月 20 日
発行者　　中村　晃

平治岳にて　　楢崎　賢治

（私の写真歴）
・カネカ九州営業所時代に、会社の行事を記録するためカメラ（ミノルタ α 507si）を購入。
・その後、あるカメラ店の写真教室にはいり風景写真を撮っています。定年退職後に、1 人で近所の山に登つて写しているのを、中学校の同期生に話したところ、山歩きに誘われ、初めてくじゅう連山の平治岳に登り、やっとのことでミヤマキリシマの群落にたどり着き、写したものです。

＜会員の広場＞

「ふる里」は遠くにありて

藤村　康弥

■**昭和 25 年（1950 年）3 月**、夜行列車で旧博多駅を出立して 40 有余年、神戸―大阪―栃木―東京とカネカ・カネカグループでの生業を終えて、福岡空港に降り立ったのは年号も改まった**平成 3 年（1991 年）5 月**のことでした。

■その間、身内の慶弔には何度か帰福することもありましたが、生まれ育った「ふる里」に 40 数年振りに舞い戻り、余生のひとときを過ごすことになり 12 年の歳月が流れました。

■あの終戦直前の**福岡大空襲（昭和 20 年 6 月）**で、我が家もろ共瓦礫の廃墟となった福博の町並み、そして半世紀を経て様相を整え、九州の首都としての地歩を固めた人口 130 万の政令都市「福岡」。

■すべてが半世紀以上も前の幻影と、今日目の当たりにする現実の姿が奇妙に交錯しながら融合し、「ふる里」への想いを一層募らせるものとなりました。

■福岡博多の三大祭**「博多どんたく」「櫛田祇園山笠」「箱崎放生会」**夫々時の流れと共に変転を重ね、子供の頃とはひと味もふた味も変わったものになっております。

■福博を分ける那珂川に映し出されるネオンも**「恋の中洲のネオン」**と歌われた古き良き時代のそれとは、かなり違うものになってきております。

■**大濠公園**の湖畔を巡る歩道の垂れ柳も、60 年の年輪を重ねて節くれだった老木と化し、春には交互に植栽された櫻との見事なコントラストと、背振山系の山々を借景としたその景観は周囲の高層化と共に様相を変えてしまった感があります。

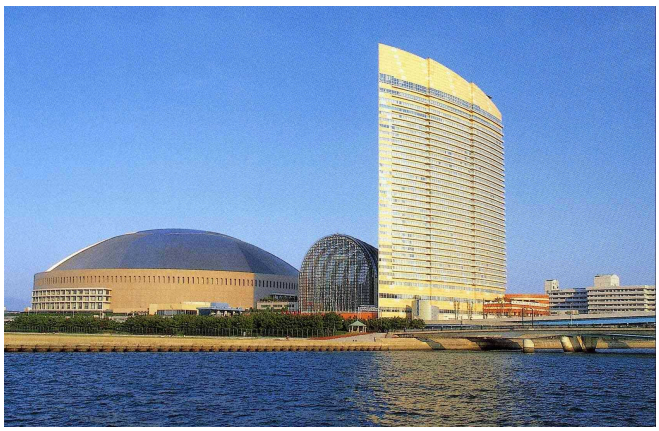
大濠公園

■夏は海水浴や精霊流しで賑わった**「百道」「地行」**の砂浜も、高層ビルや福岡ドーム・ホテルが立ち並び昔の面影はありません。

■リタイヤ後のこの 12 年間は、生まれ故郷で想い出を追い求める年月でもありましたが、カネカＯＢの方々との再会・出会いの場となった**「鐘華会九州支部」**の会合は一気に現役時代に逆行した思いで、他支部では見られないローカルな集いで、終生の想い出となりました。

■この度、舞い戻った生まれ故郷「福岡・博多」ではありましたが、「老いては子に従い」第２の「ふる里」となったカネカ生活の原点「攝津」に終の住処を求めて旅立ちます。

■皆様方の更なる御健祥をお祈りいたしながら。



百道

＜会員の広場＞

日本一長い石段への登攀挑戦

市木　丞

■全国各地のいたる所に日本一という各種各様の“もの”がある。

■ここに紹介する日本一の“もの”はその歴史こそ浅いが、その数の壮大さや長さに感動して、登攀への挑戦をここに紹介することにした。

■それは熊本県下益城郡中央町から八代郡泉町に横たわる**大行寺山（９５７m）**にある。

この山懐に**金海山釈迦院**があり地蔵菩薩が鎮座している。

■地元の人たちには“釈迦院さん”と親しみを込めて呼ばれている。この釈迦院へ通じる表山道（登山道）を“御坂”と言い、１２００年の歴史を秘めた由緒ある山道である。**その“御坂”こそが日本一長い石段（３，３３３段）である。**

■この表山道に１９８０年１月から石段建設に着手し、１９８５年１１月にこれまで日本一だった山形県羽黒山の２，４４６段を抜いて名実共に日本一の座につき、１９８６年３月に完成し、総石段数３，３３３段（**標高８６０m**）となった。

■登山口の土産物店で、石段と釈迦院について色々と話を聞くことが出来た。

「この石段を早い人は３０分で、ゆっくり登っても９０分位で登りきれるだろうと、また一日に２～３回往復する猛者もいる」と主人の話であった。

■開き始めた山桜を眺めながら、我ら夫婦は時間を設定することなく、ゆっくりと歩をすすめ一段一段に六根清浄を込め、石段を登りきり釈迦院に詣でることにした。

■登り始めの数十段は、うまくリズムが取れず、息苦しさを感じたが、だんだんと慣れるにしたがって周囲の草木に春の息吹を感じ、見渡す余裕が出てきた。ペースさえ掴めば我が意を得たりである。

■石段の両脇には杉やヒノキの人口林が程よく手入れされている。また、この石段には手摺りが取り付けてある。そして１００段ごとに石柱が立っており、現在の段数を知らせてくれる。

■道中には整備されたトイレや水飲み場が数ヶ所に設置されている。その他にもいろいろな形をした「あずまや」があり、平凡な石段登りに一服感を与えてくれる。これらの場所で休息をとり、充分に水分補給しながら一路頂上を目指した。

■登り初めて１００分、ついにゴールに達した。「ヤッター」と征服感・爽快感が押し寄せて来た。

最上部（標高８６０m）には広場と展望所がある。この日はあいにく花曇りでも言うのか霞がかかり遠望することができなかった。好天に巡り合わせれば展望所より遠く阿蘇平野・有明海・雲仙方面を見渡すことが出来る由。

■まずは、石段３，３３３段の登攀ができた。しかし、そこは大行寺でもなく釈迦院でもない。さらに最終目的地まで平坦な道を歩くこと２０分、目指す釈迦院に到着した。

■この釈迦院は延歴１８年（９８８年）恒武天皇の時代に開基した古刹である。鬱蒼とした木立の中の、その荒廃した社殿に鎮座する地蔵菩薩に手を合わせ、境内を後にした。

■帰路も同じい石段を下り、登りとは違う景色を見ながら、どんどんリズム良く心地よい春風と共に６０分で下段した。

■出発前に立ち寄った土産品店の主人としばし談笑となり、「６０歳で１００分なら上出来」と誉められ、悦に入って、帰福の途についた。

＜四王寺山ハイキング（３月２２日）＞

■当日朝９時半には昨晩からの雨もあがり、曇天ではあるが、ハイキングにはマアマアの天気となった。
　西鉄都府楼前に集合したのは平均年齢６２～３歳の４人ではありましたが、みんな山好き人間ばかりでした。

■早速リーダーの市木さんの案内で**太宰府政庁都府楼跡**に、朝の都府楼跡はひと気もまばらで早速四王寺山をバックに石碑前で記念写真を撮り、桜のつぼみを眺めながら山路に向かいました。

■人里を離れ山道を黙々と登ること３０分、綺麗な沢水と戯れながら上を見上げるとそこは坂本の大石垣でした。更にひと登りして、増長天跡を横目に稜線の林を北へと向かうと見晴台があり、休憩。

■眼下には**水城から原田、遠く筑後平野を見下ろし、対面には天拝山、基山、遠くには背振**といいたいところだが雲に隠れて見えないのが残念でした。
　更に５分程度尾根伝いに行くと、**２６番札所**の見晴らしは絶景。

■北は博多湾から南は霞んだ筑後平野を見渡せ、双眼鏡で必死に我が家を探す中村さんでありました。いい加減ギブアップしたところで､また歩くこと１０分弱。

■頂上の**大城山、別名四王寺山**に到着しました。頂上の三角点がみつからず、皆で探したら、なんとご神木に標高４１０ｍと書いてありました。

■先ずは**毘沙門天**にお参りして、昼食をとりました。

■午後は登りと反対斜面をいったん下ると**県民の森公園**が広がり、更に登ること２０分、広い**焼米ヶ原**に出る。東に宝満・三郡連山、**古処山、眼下に大宰府、南に筑後平野を見渡し、遠く耳納連山**が霞んで見えました。
■この頃には天気も晴れ、絶好のハイキング日和になりました。これからは大宰府に向けて一路山くだりであります。

■途中、**岩屋城跡**に立ち寄り、さすが、筑紫の国と筑後の国の境を一目で睨みの利かせる古城跡に立ち天下を治めた気分となりました。
■すぐ下に福岡郷土史には必ず登場する時の豪族**高橋紹運の墓**があり、お参りして木立の続く山道を下って行きました。

■里に出た時にはお天気に誘われたドライバーの列が続いていました。
■我々はその歩道を大宰府学院跡、観世音寺を通り天満宮に向かって３０分程歩くことにしました。ハイキングの終わりは宮前の風流なお店で**梅が枝餅と抹茶 or ビール**で閉めることになり楽しい一日でありました。
■そして午後３時５０分の電車で家路に向かいました。

■この標高４１０ｍの四王寺、大野城跡踏破は鐘華登山同好会結成のキックオフとなったのでありました。

上野　與志隆　記

＜第５回ゴルフコンペ　４月２４日＞

◇場　所：ブリヂストンカントリー倶楽部
◇成　績：ダブルペリア方式
◇参加者：１２名

優勝　上野　與志隆
２位　薬師寺　是文
３位　後藤　祐吉

◇特　記：

■今回は初参加の方が多く、ダブルペリア方式にしました。　（初参加：薬師寺さん、古賀（照）さん、川上さん、　堂ノ口さん）

■ハンディに恵まれた事もあり上野さんが優勝。ベス・グロは薬師寺さん、グロス２位も川上さんと新顔に支部コンペのレベルを引き上げて頂きました。

■いつもの顔ぶれに、新しいメンバーが加わったことで、プレー後の表彰式も大いに盛りあがり、次回は例会（１１月１５日）の前日（１１月１４日）泊りがけでやることに決まりました。

＜人の動き＞　（詳細は名簿参照）

◇　古城　一洋さん
　　→鹿児島県姶良郡へ（２月）
◇　古賀　照孝さん
　　→福岡市へ（３月）
◇　藤村　康弥さん
　　→大阪府摂津市へ（４月末）
◇　薬師寺　是文さん
　　→大分県津久見市へ（５月）

＜平成１５年度の支部活動計画＞

※　既に実施した行事

・３月２２日（土）　第１回ハイキング
　（前ページに記載）
・４月２４日（木）　第５回ゴルフコンペ
　（左に記載）

※　これからの行事予定

・５月２０日ごろ　支部だより（第４号）
・５月３１日（土）　第２回ハイキング

◇目的地：基山の史跡めぐり
◇集合場所：ＪＲ原田駅改札口
◇集合時間：ＡＭ１０時００分
◇多くの方の参加をお待ちしております

・９月予定　武蔵にちなんだ小旅行
・１０月予定　第３回ハイキング
・１１月１４日（金）　第６回ゴルフコンペ
・１１月１５日（土）　１５年度例会

■今年度の例会の予定が、上記の通り決まりましたので、チョット先の話ですが予定表に記入願います。場所は熊本県玉名市あたりにしたいと思っています。詳細が決まりましたら、またご連絡いたします。

■行事予定は以上ですが、皆さんのアイデアを募集します。「こんな事をやってみたら」と思いついたら幹事までご連絡ください。

■皆で盛り上げていきたいものです。

編集後記

・藤村さんに、なにか書いてもらうようにお願いしていたところ、突然摂津市から原稿が送られてきて驚きました。「ふる里は、遠くに在りて」　藤村さんのふる里・福岡への想いがこめられています。
　早速、電話で九州支部の行事にも、たまには出席してもらうようにお願いしました。
・今回の作品展は、楢崎さんにお願いしました。最近、気に入った作品が撮れないと、悩んでおられましたが、結局初めて「くじゅう連山」に登った時に苦労して写した作品を送っていただきました。
・石段への挑戦は、市木さんらしい試みで、その健脚に脱帽。（尚、登られたのは今年の３月３０日です）
・ハイキングの原稿は、上野さんから、ワードでうったものに写真を添付してメールで送ってもらい、そのままコピーしたものです。パソコンの便利さにあらためて驚かされます。
・今年度の例会が１１月１５日（土）に決まりました。今から予定して頂き、昨年と同様に出来るだけ多くの方に参加いただき、「九州支部の元気さ」をＰＲしたいものです。